第13回全日本ブラインドセーリング選手権大会報告
～天候に恵まれず、無念のノーレース～

台風21号の影響により、あいにく悪天候の予報。2年間待ちに待った全日本選手権大会の、なぜこのタイミングに台風が来なければならないのか。秋雨前線も居座る最悪の状況である。セーリングは海上のスポーツ故、自然とは切っても切れないものであることは誰もが熟知していたはずだが、実際には割り切れないものである。

21日土曜日は朝から雨天であったが、定刻通りホテルを出発し、8時30分より受付を開始する。開会式と艇長会議に引き続き、安全講習会改め「勉強会」にて過去のレースで起こった事故を検証しながらJSAFから派遣された委員より説明があった。風が弱かったため、出艇を遅らせ、昼食を先に済ませてから12時前にレース海面に向かったが、ほぼ無風状態になり12時30分スタートのレースは延期。その後も風待ちをし、さらに一度ハーバーに戻って待機することになった。ジュリーのチームと相談をし、本来3レースで成立するところを救済措置として、1レースでも大会成立にするとしたが、レースができる状態でないとの最終的な判断で、15時前に初日は敢え無くノーレースで終了した。

大会2日目の22日日曜日も台風上陸を目前にし、ハーバーの防風対策も必要なため、21日のレース中止決定とともに、第13回全日本ブラインドセーリング選手権はレース不成立となった。

21日の夕方からは予定通りハーバーでのバーベキューによる懇親会は開催され、選手間の交流、大会準備を頑張ってきた浜名湖支部の運営チームへの労い、お手伝いただいたボランティアの方々、そしてレース委員、ジュリーの方々と貴重なお話しを楽しんだ。恒例のチーム紹介では、チーム名の由来や幻となった表彰式をイメージしたスピーチは笑いに包まれ、「レースはできなかったが、三河湾をセーリングできたことはよい経験になった」と、各チームとも感想を述べた。最後は副賞となるはずだったJBSAのオリジナルグラスとガラスのトロフィーの争奪じゃんけんでも大いに盛り上がった。

翌22日も弁当のキャンセルができないとのことで、全員がハーバーに向かう。昨晩のアルコールが抜けきらないのか、本降りの雨に打ち拉がれたのか、バスは重い空気であった。せめて1レースできればという皆の願いも空しく、J/24の艇が置かれていたポンツーンもすっかり片付けられ、風雨の勢いだけが増していた。この風のほんの少しでも、昨日吹いてくれたら良かったのにという恨み節を言いたい極端な天気の変化である。9時にシンプルに閉会を宣言、集合写真を撮って、再びここでレースを行えることを各々誓い合いながら、早々の解散となった。

大会概要

期日：**２０１７年１０月２１日（土）～２２日（日）**
場所：愛知県西尾市東幡豆町緑ケ崎１　マリーナ東海
主催：ＮＰＯ法人 日本視覚障害者セーリング協会（ＪＢＳＡ）
公認：公益財団法人 日本セーリング連盟（Ｈ２９－２２）
後援：マリーナ東海
協力：日本セーリング連盟（障がい者セーリング推進委員会）
　　静岡県セーリング連盟、三河湾リゾートリンクス

総参加者　　**43名**

内訳(参加者の役割)

役員(レース運営)	5名
選手(5チーム)	20名
ボランティア(運営)	16名
応援(会員家族)	2名

内訳(参加者の所属)

神奈川支部	15名
浜名湖支部	14名
東京支部	8名
その他	6名

内訳(視覚障害者と健常者)

視覚障害者選手	10名
視覚障害者ボランティア	3名
健常者選手	10名
健常者その他	20名

内訳(性別)

女性視覚障害者	2名
女性健常者	7名
男性視覚障害者	8名
男性健常者	26名

大会会長挨拶

レース委員・ジュリー

受付・陸上本部

チーム紹介

チーム「プリンス」　神奈川

チーム「チフミン」　東京・神奈川

チーム「ビーネマーヤ」　東京・神奈川

チーム「うみとら（海虎）」　浜名湖

チーム「D4」　東京・神奈川

お預けとなったメダルと賞状

マリーナ東海とレース海面の様子

J/24　艤装

スタートを待つレース艇

セーリングするD4チーム

レース延期の旗を挙げる本部艇

無風でべた凪の海面を後にする

レース艇を避難し終えたハーバーのスタッフ

懇親パーティー